



故 熊本悦明先生

公益社団法人日本化学療法学会 名誉会員

2022年5月4日 ご逝去（享年94歳）

熊本悦明先生 ご略歴

【学 歴】

1955年 東京大学医学部卒業

【職 歴】

1955年 東京大学医学部泌尿器科学講座 入局

1965年 東京大学泌尿器科学講座 講師

1968年 札幌医科大学泌尿器科講座 教授

1994年 札幌医科大学付属病院 中央材料部長

1980年 同 理学療法部（現 リハビリテーション部）部長

1982年 同 副院長

1997年 性の健康医学財団 会頭

【受賞歴】

1964年 日本泌尿器科学会 坂口賞

1974年 北海道医師会賞・北海道知事賞

1995年 鈴木金治記念医学研究奨励賞

1995年 日本化学療法学会 志賀 潔・秦 佐八郎記念賞

1999年 保健文化賞

2018年 日本加齢医学会 抗加齢医学功労賞

2019年 日本泌尿器科学会 医療賞

【主な主催学会】

1976年 第41回 日本泌尿器科学会 東部連合総会

1979年 第24回 日本不妊学会総会（現 日本生殖学会）

1988年 第1回 日本性感染症学会学術総会

1989年 第8回 日本アンドロロジー学会学術総会

1990年 第78回 日本泌尿器科学会総会

1993年 第4回 日本性機能学会総会

【日本化学療法学会役員など、同関連主催学会】

1970年 日本化学療法学会 評議員

1983年 同 東日本支部長

1987年 同 理事

1993年 同 監事

2000年 同 名誉会員

1977年 第24回 日本化学療法学会東日本支部総会 会長

1984年 第32回 日本化学療法学会総会 会長

熊本悦明先生のご逝去を悼んで

2022年5月4日に熊本悦明先生が突然ご逝去されました。享年94歳でした。「突然」というのは、それまではこのようなことが起こるとは誰も考えていなかったからです。男性医学および男性更年期医学の大家でもあった先生はお元気で100歳を迎えられる精神的にも肉体的にもスーパードクターである、と信じて疑っていませんでした。そのため、先生の教えを受けた誰しものが、この訃報に接し驚きと悲しみを同時に感じています。残念でなりません。

先生の身近にいてその教えを直接受けた弟子として先生の感染症学、抗菌化学療法学のこれまでの業績の一部に触れ、先生を追悼したいと思います。

先生は、1929年10月21日に東京でお生まれになりました。1949年に東京大学医学部に入学され、1955年のご卒業と同時に同大学泌尿器科学講座に入局されました。男性ホルモンの研究を志していたことが入局の理由と話しておられました。その後、同大学の講師となられ、米国のUniversity of California Los Angeles校留学を経て1968年に弱冠38歳で札幌医科大学泌尿器科学講座の4代目教授に就任されています。

札幌医科大学教授就任以降の各研究領域における先生のご活躍に関しては改めて触れるべくもありませんが、当初ライフワークとされていたAndrologyにもう一つのライフワークを追加されました。それが尿路感染症の研究でした。いつの頃か忘れてしまいましたが先生は、「日常のありふれた疾患の科学的な解明こそが医学に貢献する」と話されていたことを思い出します。この研究の範囲はさらに性感染症の研究へと広がって最終的には尿路性器感染症の広範な基礎的、臨床的研究成果に結実しています。

尿路性器感染症の治療学としての抗菌化学療法の研究に関しては、1976年の第41回日本泌尿器科学会東部連合地方会での会長講演「女子尿道膀胱炎に関する諸問題」での発表を嚆矢としますが、1977年の第24回日本化学療法学会東日本支部総会会長講演「下部尿路感染症の諸問題」、そして1984年の第32回日本化学療法学会総会における「下部尿路感染症の発症機序」などの発表へと大きく発展しました。このような発表の基となったのは、先生がご指導されたuropathogenの病原性、尿路粘膜への付着、侵入機序の解明、尿路の局所免疫応答（粘膜免疫）の機序などの研究で、そしてこれらの成果は*in vitro*尿中抗菌薬濃度自動シミュレーターによる膀胱炎実験モデルを用いる理論的抗菌化学療法の研究での成果に結実しました。これらの成果は尿路感染症における抗菌薬の最適な投与方法を科学的に推測するのに大いに貢献しました。

上記の尿路局所感染免疫応答反応の研究に対する先生のご指導は、教室員の日本感染症学会「北里柴三郎賞（1995年）」を、また「理論的抗菌化学療法」の研究指導も教室員の日本化学療法学会「上田 泰賞（1995年）」受賞をもたらすに至っています。そして、先生ご自身もこれらの広範囲な化学療法、尿路感染症に関するご業績（尿路性器感染症における宿主側の免疫応答、ことに粘膜局所の免疫の問題に関する研究を始めとする泌尿器科領域の研究）で「第6回志賀 潔・秦 佐八郎記念賞（1995年）」を受賞されています。

先生の感染症学、抗菌化学療法学におけるご業績はこれまで縷々述べたものにとどまらず、1970年代の前半から早くも緑膿菌の院内感染症の問題に取り組み、病棟における緑膿菌分布の疫学調査を強力に実施し、交差感染、自己感染の存在に警鐘を鳴らしました。これは緑膿菌にとどまらず、セラチア、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の本学附属病院の院内感染とその防止への取り組みに生かされてきました。

また、先生は特に1970年以降大きく変貌した性感染症の診断と治療にも国内でいち早く取り組まれ、1988年に設立された日本性感染症学会の初代理事長としてこの疾患の医学界および社会への啓蒙、啓発に精力を注がれました。「性あるところに感染あり」が先生の口癖でした。また、おひざ元の札幌では北海道における性感染症研究の中心組織としての「札幌STD研究会」を組織されました。この組織は広く大学、基幹病院、クリニックの泌尿器科医が参集したのみならず広く産婦人科医、皮膚科医、細菌学研究者が参加するというオープンな組織であることに大きな特徴がありました。この研究組織での臨床研究は性感染症の疫学、診断、治療法に関する多くの臨床的知見を生み出したことも先生のご功績と強調できる点と考えています。

個人的なことになりますが、先生の教えに接してから、執筆者の1名は50年近く、もう1名は30年近くが経過しています。先生のすべての弟子が1回は言われたフレーズ、「君、やってみないとわからないよ」、「100回叩いて鳴らなければ、101回叩きたまえよ」、「寝ないでやれば明日の朝までには十分間に合うよ」などなど、いまだに耳元に聞こえてきそうです。実際、何かの折にその言葉がふと頭に浮かびます。私たち弟子、仮に不肖の弟子であったとしても、医師としての屋台骨は間違いなく先生の教えによって作られたと確信しています。

天に召された熊本悦明先生の平安をお祈りいたします。

札幌医科大学名誉教授 塚本泰司

札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座 高橋 聡